

KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 212 Jan. 2023



2023(令和5)年 年頭のごあいさつ

理事長 土屋 勝

新年あけましておめでとうございます。

12月から1月にただ月が変わっただけですが、年の
はじまりは、やはりあらたまった気持ちになります。

京都薬科大学関係者の皆様におかれましては、つづ
がなく2023(令和5)年を迎えられたことと存じま
す。

新型コロナウイルス感染症のまん延も3年が経過し
ようとしていますが、未だに終息の目処は見えていま
せん。

本学も2020年1月から始まったこの新型コロナウイ
ルス感染症の感染防止の3年間の対応では、卒業式・
入学式を始めとするほとんどの行事の中止や延期、
3ヶ月間にわたる長期の休校、それに伴うオンライン
授業の実施など、本学にとって未曾有の事態を経験し
ました。

これまでは、対面とWebの組み合わせによるハイブ
リッド講義、人数を制限した実習、食堂など施設の利
用制限、クラブ活動の制限、大学独自のPCR検査、ワ
クチンの大学接種など、ありとあらゆる感染対策を実
施してきました。

学生、職員の皆様には多くのご負担をおかけし、ま
た、多大なご努力をいただいているお陰で、多数の感
染が確認されていますがクラスターは発生せず、本学
の教育・研究は遅滞するどころか、更なる発展に向け
て新たな学修への展開の可能性を探ることができたと思
っています。

昨年8月文部科学省の「薬学系人材養成の在り方に
関する検討会」では将来的な薬剤師の供給過剰や一部
大学における教育の質を懸念し、6年制課程における
薬学部教育の質保証に関する方針が取りまとめられま
した。

基本的には、薬学教育の質を保証することが重要で
あるとしており、標準修業年限内の薬剤師国家試験合
格率や卒業率などでの改善を示しています。

これらを担保するため、薬学教育においても医
師、歯科医師と同様、国が法令により入学定員を抑
制する仕組みを策定すべきこと、定員未充足の大学
に対しては私学助成の減額率の引き上げ、不交付を
厳格化すべきと提言しております。

薬学教育の質の保証は瞭然たる方針であり、本学

CONTENTS

■ ご挨拶

- 2023(令和5)年 年頭のごあいさつ 理事長 土屋 勝 1
- 新年にあたって 学長 赤路 健一 2
- 新任のご挨拶 3

■ 特集

- 2022年度京薬祭を終えて 4

■ 報告

- 2023年度学校推薦型選抜結果 10
- 受賞・掲載 17
- 京都薬科大学奨学寄附金芳名録 20

■ コラム

- 事務局お仕事紹介 7
- 私の薦める、私の一冊 9
- 卒業生からのメッセージ 10
- 学生相談室だより 14

■ イベント

- 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都 2022」を開催 8
- 2022年度 防災(避難)訓練を実施しました 8
- 卒業生・在学生交流会(オンラインLIVE)を開催しました 12
- 「病院パネルディスカッション」を開催しました 12
- 2022年10月「オープンキャンパス」の実施について 13

■ お知らせ

- 人事 3
- 2022年度動物慰霊祭 3
- 京薬会だより 7
- Library News 9
- 2022年度後期試験等日程 11
- 単位互換制度~他大学の科目・講座を受けてみませんか~ 11
- 第108回薬剤師国家試験の概要 13
- 生涯教育センターからのお知らせ 15

の使命は、全国各地から一定の学力を持った学生を入学させ、6年間責任を持って、科学教育を基盤とした課題探求型の教育を行い、標準修業年限（6年間）で卒業、薬剤師国家試験に合格させ、自ら希望する進路に進み、医療を始めとして社会のあらゆる分野で活躍できる人材を育成し、さらに、卒業後も本人のスキルアップを支援する、ことであります。

職員の皆様方も、この使命を全うできるようより一層のご努力をお願いする次第であります。

次に新校舎建築について、述べさせていただきます。

2013年3月の理事会で、1973年に竣工した育心館と1983年に竣工した教育研究総合センターが経年化したことから、その建て替えが承認されました。

当初は、創立130周年記念館の北側に立体駐輪場を移転し、移転した現立体駐輪場跡に新教育研究総合センターを建設、その後、教育研究総合センターの跡地に新育心館を建築する計画でありました。

その後、建築コンサルタントを活用しながら経営推進会議と施設課で構成する施設検討会を十数回開催し、当初の計画を白紙に戻し、各関係委員会、教務、学生などの各部局の意見を聞き、2021年2月に、教育研究の核となるD棟を図書館の北側に、学生の厚生施設C棟を創立130周年記念館の北側に新築するとともに、現教育研究総合センターを改修してC棟、D棟に入りきらない施設を集約する、という基本構想を作成し

ました。

この基本構想を元にした基本設計は、2022年2月の理事会で承認を得た後、関係者へのヒアリング、学内パブコメを行いました。

このヒアリング、パブコメのご意見で400人規模の大講義室の設置、実習室及びPC演習室等の仕様変更など基本設計を見直し、2022年10月に最終の基本設計の概要を教職員の皆様にお知らせしたところであります。

今後は、実施設計を行い建築業者の選定を経て、2024年1月からD棟を、2025年9月からC棟の建築が始まり、育心館、立体駐輪場の解体を経て、最終的には7年後の2029年2月にすべての工事が完了する予定です。

大講義室の設置、実習室の拡充、先端的研究推進の基盤となる共同利用施設・センターの整備などこれらの新棟の建設により、たすき掛け講義や過密実習スケジュールの解消、シナジー研究体制の強化などが図られ、今後の教育、研究の体制が大きく改善するものと確信しております。

最後になりますが、今年は卯年です。卯（うさぎ）は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」を意味し、また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」の象徴とされています。皆様方も家族共々家内安全で、自分自身を飛躍、向上されることをお願い申し上げ、新年の挨拶とします。



新年にあたって

学長 赤路 健一

あっという間に1年が過ぎ2023年を迎えました。昨年末の予想では今年1月早々に新型コロナ第8波のピークを迎えるそうです。この新年のあいさつで新型コロナ感染に触れるのは今年で3回目になります。

ワクチン接種によって重症化が抑えられるようになりつつあるとはいえ、感染者の数が減っているわけではありません。治療に関しては、新型コロナに特異的に作用する抗ウイルス薬開発が最大の課題です。コロナに効く薬ができて初めて新型コロナ感染がインフルエンザと同じレベルの感染症と認識できるようになります。薬の研究を専門とする薬科大学が学術機関としてこのきわめて重要な課題にどのように寄与すべきか、あらためて考え直す必要があることを痛感しています。教育面からの対応としては、現在の対面/Webを組み合わせた講義形式と対面実習によるカリキュラム構成が当面続く予定です。

今年度では、これまでの経験をもとに感染状況や各年次での課題内容に対応しつつ講義形態を調整し、できるだけキャンパス内での対面交流やクラブ活動ができるよう工夫したいと考えています。もちろん三密を避け飛沫感染を防ぐといった基本的な感染症対策が基本になりますが、医療系大学の一員と

して他のモデルとなるようなバランスの取れた対応を目指します。それでもある程度の不自由さが残るかもしれませんが、引き続き各年次の学生の皆さんや教職員の方々のご協力のもと、より良い方法が可能になる施設整備などに努めていきたいと思っています。

さて、昨年度はいくつかの大きな懸案に向けた対応がスタートした年でした。第4期中期計画が始まるとともに新しいモデルコアカリキュラム策定を受けた本学独自の新たなカリキュラムの制定も始まりしました。今年はこれらの事業を具体化させ、中期計画の実施に取り組むとともに新しいカリキュラムを確定させる年になります。中期計画の大きな目標の一つが留年率をできる限り少なくすることです。今年はそのための講義の工夫や学習支援制度の効果を検証し、新しいカリキュラム制定に反映させる年にもなります。先生方の講義がより分かりやすくなり、学生さん達に新しい発想を湧き出させるものになるよう、制度や設備上の工夫を凝らしたいと考えています。すぐに対応すべき課題の一つとして、新型コロナ感染やインフルエンザの流行がどのような形になっても対応できるハード面とソフト面の整備があ

ります。これらの対応を進めることで講義や実習のスタイルを多様化させ、感染の脅威がどのように変化しても状況の変化に対応しつつ柔軟な教育環境の選択ができればとなると期待しています。新しいカリキュラム設計についてより緻密な議論を進め、講義手法等の変化をあらかじめ考慮しつつ先生方や学生の皆さんにとってより高い教育効果が期待できるカリキュラム構成を目指します。あわせて、卒業後の国家試験に向けた6年次での総まとめ学習の検証を進める計画です。6年間の学習内容をあらためて確認しつつ、国家試験合格に向けたより効果的で実践的な学習支援体制構築とアップデートに努めたいと考えています。

一方、今年は新たなキャンパス整備計画がいよいよ具体化し始める年でもあります。教育環境をより充実させるための講義室や実習室のみならず現在の育心館機能を吸収できる新しい建物とともに、クラブ室をはじめとする課外活動に直結する施設的设计

が始まる予定です。これから何年間かの期間が必要ではありますが、講義室や実習室の整備と合わせ、学生生活がより潤いのあるものになる多様な機能を整備できると期待しております。ただ、狭いキャンパス内での工事が必要と予想されるため、建設期間中はいろいろとご不便をおかけすることがあると思います。御寛恕御承引のほどお願いいたします。

今年はウィズコロナの体制で新しい一歩を踏み出す年になるだろうと思っています。新型コロナ感染が落ち着いたとしても、今までとは違った感覚で教育研究に携わる体制や意識が生まれ、コロナ前とは異なる認識が普及してくると思います。医療界を含む社会全体で遠隔講演や遠隔診療などをはじめとするデジタル環境が急速に普及し、社会構造の変化が加速されると予想されます。新たな社会環境と時代意識のもとで本年が皆様それぞれの目標に向けた新しい飛躍の年になることを祈念しています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新任のご挨拶



事務局
教務課

はせがわ いくみ
事務局 長谷川 育実

2022年11月1日付で教務課へ配属となりました。この場をお借りして、皆さまへご挨拶申し上げます。

前職は大学職員として勤務し、履修関連の教務系業務に携わったのち、会計担当として支出や補助金の管理といった業務に携わっておりました。同じ大

学職員ではあるものの、着任後、業務を進める中では、様々な違いを目の当たりにし、大変興味深くかつ身の引き締まる思いです。また、まだ短い期間ではありますが、業務を通じ、学生・教職員の方々と接する中で、皆さまの温かさを感じる毎日です。

ささやかではありますが、これまでの経験を活かし、学生・教員の方々の力になればと思っています。至らぬ点もあるかと思いますが、本学の発展に貢献できるよう、努めてまいります。皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

News 人事

採用

事務局教務課

事務局 長谷川育実
(2022. 11. 01付)

配置換え

事務局企画・広報課

主事 清水 芳美
(前 事務局調達検収室)
(2022. 09. 01付)

再任

教育研究総合センター 学生実習支援センター

助教 高田 哲也
(任期：2022. 10. 01～2027. 09. 30)

兼務解除

事務局調達検収室

兼務 事務局企画・広報課

主事 清水 芳美
(2022. 08. 31付)

News 2022年度動物慰霊祭

庶務課

10月31日（月）に、本校地の動物慰霊碑前において、2022年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

土屋理事長、赤路学長、斎藤副学長、加藤バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

2022年度京薬祭を終えて

2022年度 京薬祭実行委員会 実行委員長 3年次生 吉永 紗桜

よしなが ささら

今年の京薬祭は3年ぶりの対面での実施となりましたが、10月29日（土）・30日（日）の2日間無事に開催できたことを本当に嬉しく思います。まずは今年度京薬祭の開催を迎えるにあたり、多くのご支援、ご協力を賜りました本学、京薬会、教育後援会をはじめとする関係者の皆様、またお世話になりました学生課、施設課の皆様、そして学祭を盛り上げてくださった多くの部活・サークル団体の皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

今年度のテーマは「RESTART～心は密に！～」でした。この2年間はコロナ禍の影響により配信での学祭実施となったため、現在の3年次生までの学生は対面での学祭を経験したことがありませんでした。そこで、自ら参加していく学祭を新たにRESTARTしたい、3年ぶりに対面学祭の実施を目指したい、ということでこのテーマに決まりました。

対面で学祭を実施するにあたって、どのような感染対策を講じなければならないのか、またその感染対策を行いながら、学祭に来てくれた方にどのように楽しんでもらうのか、そして学祭に興味を持ってもらうためにはどうすればいいのか、この点が、私たちが最も試行錯誤を重ねた点でした。感染対策の一つとして今年は在学生のみを対象として実施することに決めましたが、コロナ禍での学生生活が影響し、学祭への関心が薄れてしまっている学生が多い中、一体何人の学生が学祭に来てくれるのだろうと、本当に当日まで不安でした。しかし、当日の2日間本当に多くの学生、大学関係者の皆さんに来ていただき、観覧用の椅子が埋まり、立ち見でステージを見ていただくという状況に胸がいっぱいになりました。

実行委員会内の最高学年である私たち3年次生も対面での学祭を経験したことがなく、引き継いでいただいた過去の資料をもとに一から作り上げる形になりました。

3月の終わり頃から構想を練り始めましたが、どうしても10月の感染状況が読めず、常に何パターンもの学祭を考えながら、最終調整を行っていくというのが今年度の苦労したところだな、と思います。

4月から企画書作成や、運営スケジュール、業者さんとの当日に関する打ち合わせなどを行い、9月半ばから京薬祭当日までの1ヶ月半は、当日に向けたリハーサルや物品準備の期間で毎日集まって活動を行っていました。模擬店はキッチンカーに、企画は外部のお客さん向けに行っていたものはやめ、新しい企画をいくつか立ち上げ、観覧方法や宣伝方法などもこれまでのものをもとに新しくしました。

実行委員会では、3年次生が京薬祭の運営に関わる委員を務め、1、2年次生が各企画に分かれて、当日のステージ企画を担当するのですが、どのポストも初めてのことが多かったため、私自身実行委員長という立場であり、たくさんの実行委員と様々な話し合いを行う機会がありました。その中で、各委員が本当に頑張ってくれたおかげで成し遂げることでできた学祭だったなと改めて実感しております。



KYOYAKUオブジェお披露目会



煌めく垂れ幕

学祭が始まってしまえば本当に一瞬の時間でしたが、開催までには悩む点や不安な点も多くあり、早く学祭を終えたいと正直思ってしまう時もありました。しかし、学祭が終わってしまった今、本当に貴重な時間を過ごさせてもらっていたのだなと感じます。たくさんの仲間や先輩方、後輩のみんなに支えられた実行委員生活でした。特に同学年、そして幹部のみんなには言葉には表せられないほどの感謝があります。本当にありがとう。

恵まれた環境の中で、95人の掛け替えのない実行委員と作り上げた今年の学祭は私にとって本当に忘れられないものになりました。たくさんの人の笑顔を見ることでできた学祭でした。私と同じように誰かの中にも残る学祭になっていればいいなと思います。そして来年度以降もこの素敵な行事がさらに多くの人にとって大切な行事になることを祈っています。

対面開催を通して

今年度は3年ぶりの対面での開催となり、私たちが経験したことのないものを作り上げるので手探りで進めていく部分が多くありました。私はイベント企画業者とのやり取りをすることがメインで、4月から今年度の京葉祭について幹部やイベント企画業者とどのような形に作り上げていくかを話し合っていました。対面での実施をできるように考えていたのですが、4月時点では10月末の新型コロナウイルス感染症の影響を予想することは難しく、配信と対面での両パターンの準備を進めていく必要がありました。対面での京葉祭を誰も経験をしたことがない学年だったので、どのようにするか自分たちで思い描いたように決めることができ楽しかったです。しかし、一から作り上げないといけないことも多くあり、幹部や3年次生、2年次生の企画長を中心として協力して形にすることができました。



LODさんのパフォーマンスで
沸く京葉生

また、今年度はアーティストライブを3年ぶりに復活させることを目標として動いていたのですが、配信では出演が難しいアーティストが多く、対面での京葉祭が決定するまでどのようになるのか具体的に想像することができませんでした。そのアーティストライブでは、3年ぶりかつコロナ禍の対面での京葉祭であったので、接触を減らすために、アーティストライブの整理番号の配布方法をQRコードから読み取り、メールでの整理番号の確認という形をとりました。しかし、時々不具合があり、思うように進まないこともありましたが、それでも、アーティストライブはとても盛況に終わることができ、自分たちの作り上げたかった京葉祭ができました。



軽音楽部さんのライブ曲に
合わせて踊る京葉生

学祭に必要なものと言えば

今年度の京葉祭開催にあたって、私は会計の仕事を務めさせていただきました。また、コロナ禍で模擬店を実施することが難しい状況ではあるものの、なんとか飲食も楽しんで貰いたいということから始まった新しい企画であるキッチンカーの出店についても担当させていただきました。企画については、現在大学に出店してくださっているキッチンカーの方々に2日間で延べ9台お越しいただき、京葉祭限定メニューなど普段とは違った特別感のあるものを提供していただきました。今年度からの新しい試みであったため、分からないことだらけではありましたが、大学の各課や業者の方々、そして何より出店して下さったキッチンカーの方々の協力のおかげで大盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。当日利用した学生達からも楽しんでくれていた様子を聞くことができ、試行錯誤しながらも最後までやり切ってよかったなという達成感と、その環境を与えてくれた周りへの感謝の気持ちでいっぱいです。



匂いにつられて並ぶ学生たち

私は今まで自分から新しいことを始めるということに対して苦手意識があり、なかなか一歩を踏み出せずにいることが多かったのですが、キッチンカー企画、そして何より3年ぶりの対面開催の京葉祭をやり遂げることができたという素晴らしい経験を通して、自分から動き出すことの大切さとともに楽しさを感じることができました。この経験を無駄にすることなく、新しいことにも楽しみながら挑戦して、しっかりと今後の人生を歩んでいきたいと思えます。

京葉祭開催に関わってくださった方全員にこの場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

積極的な対話を通して

今年度、書記を務めた濱田です。書記の仕事は実行名簿、名鑑の作成などの事務作業、対面での主な活動は2年次生以下が行う各企画の監修です。前年度、クイズ企画長だった経験を生かし、クイズ企画以外にも計5企画全てに携わりました。

今年度は私たちが経験したことのない対面での開催だったため、始めのうちは企画成功の展望があまり見えませんでした。さらに、今年度は1年次生が非常に多く、始めはまとまりが無く、企画もなかなか前に進みませんでした。そこで焦らず、まずは1、2年次生一人一人と他愛もない話などで、積極的にコミュニケーションを取るようにしました。すると、1、2年次生もこちらの話に耳を傾け、主体的に動いてくれるようになり

ました。実際には異なりますが、私自身も本番直前まで各企画の一員となることで、1、2年次生だった頃を思い出し、手解きすることが出来たように思います。本番は、私は見守っていただけですが、見事に企画員一丸となって成功で終えることが出来ました。企画を終えて安堵の表情を浮かべる1、2年次生を見て、私もほっとしました。

今年度の活動を振り返ってみると、学年を問わず、積極的にコミュニケーションを取ることで初めて見えてくるものが多くありました。それ以降、活動自体も楽しく、豊かで実りあるものになったように感じます。この貴重な経験を今後も様々な場面で活かしていきたいと思います。



満員御礼ゲーム大会

賢明な道を

私は、去年の冬に副実行委員長に推薦していただきました。しかし、自分に務まる自信がなかったので断ろうと考えていました。その時に、同期である3年次生と一緒に幹部として働きたいと言われたのをきっかけに副実行委員長になることを決意しました。自分の役割として引き継ぎで伝えられたことは実行委員長を支える仕事であるということです。そのため、最初は具体的にどんな仕事をすればいいかわからずに戸惑っていました。しかし、学祭が近づくにつれて、与えられた仕事以外にも、率先して仕事を貫うことが出来るようになりました。その中の一つである学校の装飾を私は主として行うことになりました。

今年は3年振りの対面での京葉祭だったので、私たち3年次生は初めて装飾を行うことになりました。今まで1度も京葉祭の様子を見たことがなかったため、完成の見えない物を一から作るのは大変でした。本番当日に間に合うかの焦り、理想の形になるかわからない不安が入り交じって悩むこともありましたが、完成の見えない物をただひたすら行い続けていました。そして、当日に完成したものを見て、私は感銘を受けました。

この時、私はこの仕事を引き受けて良かったと感じました。副実行委員長を引き受けてからの期間、大変なことや悩むことはあったけれど、私は副実行委員長になって良かったと心の底から感じました。



京葉祭オリジナルデザインの
愛学館階段



学祭を無事終え達成感に満ちた顔の実行委員達

■ 第1弾 企画・広報課

はじめまして。私たちはKPU NEWS編集委員の学生です。

突然ですが、皆さんは大学の事務局についてご存知ですか？

実は13も「課」や「室」といった部署があり、それぞれ大学や学生のためにお仕事をされています。そんな縁の下の力持ちの各部署について、インタビューし紹介していきたいと思います。

第1弾は、このKPU NEWSを編集している企画・広報課です。企画・広報課は愛学館7階にあり、主な仕事内容はHPの更新をはじめとする様々な広報活動や学内イベントの実施、広告の管理、KPU NEWSの発行などです。この辺りの仕事は皆さんも想像できると思いますが、実はもっと意外な仕事もされていました。

例えば、大学改善を目的とした5年刻みの中期計画を作成・推進されています。2021年度まで実施していた第3期中期計画では、目標のひとつに学生の主体性向上があり、その一環として学内ジョブ制度が導入されました。このような中期計画全体の進捗を管理されているそうです。大学企画の運営にも関わっているとは知りませんでした。

また、公式グッズの作成もされています。皆さんが入学の際にもらった、ロゴ入りのボールペンやクリアファイルも実は企画・広報課が作成したものなんです！意外と身近な物で、企画・広報課の皆さんと繋がっているのですね。

さらに、Twitterの公式アカウントの運営も行われています。大学のイベントや研究成果などを発信されており、京薬の最新情報をいち早く知ることができます。SNSを通じて大学の情報がわかるのは良いですね。

こんなにも多くの仕事をたった3人で分担されており驚きました。

企画・広報課について少しは知ってもらえたでしょうか。今回初めてインタビューをして、知らないお仕事がたくさんあったので、他の部署にも興味が湧きました。このような形で他の部署についても、また紹介していきたいと思います。また次回お会いしましょう。



公式グッズ

News 京薬会だより

1 在学生とOBOGとの交流会を開催

「京薬祭2022」学生実行委員と京薬会学生交流委員会が学祭イベントとして合同で企画し、主に低年次生を対象にした交流懇談会を初めて実施しました。感染防止に配慮した少数グループで、様々な業界で活動している卒業生9名と学生16名が気楽な会話形式で、学校生活、進路、業界などについて本音の話を聞き・情報交換を行う内容でした。卒業生と学生を繋ぎきっかけに今後も進路選択や学校生活に生かせる情報の提供などを継続していければと考えています。



交流会の様子

2 「京薬山科移転90周年記念講演会・写真展」を開催

京薬会が企画して大学と共催し山科区の後援も得たこの記念事業は、卒業生、在学生、大学関係者、山科区民など65名の参加のもと11月6日（写真展は15日まで）に開催しました。主催者として、西野京薬会会長、赤路学長から、節目の年にあたり事業の趣旨や建学の精神を踏まえた現在の大学の姿などを、さらに鈴木栄樹京都薬科大学名誉教授から、1932年に山科の地に移転した本学の歴史をたどりながら、当時の多難な時代に京薬の継承発展に努めた先人の思いやこれまで地元山科と共存し、薬学高等専門教育を通じて発展してきた本学の歩みについて写真を交え講演いただきました。



講演会



写真展

がん患者やそのご家族を支援するチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都」を3年ぶりに京都薬科大学中央庭園にて開催しました。

手指消毒・検温・マスク着用義務化などの新型コロナウイルス感染防止策を徹底した上での縮小開催でしたが、がんサバイバーをはじめ、本学教員および学生、協賛企業の方々を含めた146名の方にお集まりいただき、盛況のうちにイベントを終了することができました。

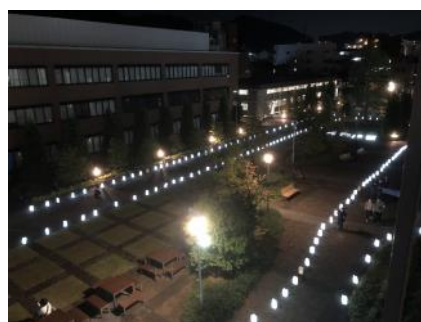
今現在も闘病されているサバイバーの皆様をたたえるサバイバーズラップのほか、がんで亡くなった方を偲ぶルミナリエセレモニー、そして、サバイバーと学生が交流する語り場などの企画を介し、サバイバーの皆様にも勇気を与えることができました。本イベントで集められたご寄付は、がん啓発活動や研究支援、そしてがん相談窓口の運営などに充てられます。

新型コロナウイルス感染拡大によって、がん患者と交流し、がんについて発信する場がコロナ禍以前に比べ減少し、大きな問題となっています。がん患者支援・啓発活動を今後も継続できるよう、京都実行委員会一同、引き続き誠意準備を進めていきたいと思います。

開催日：2022年10月22日



集合写真



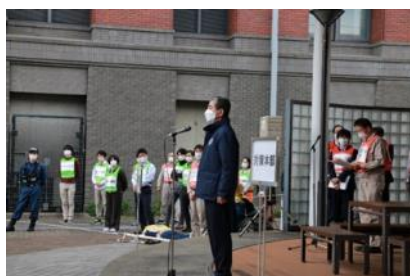
ルミナリエセレモニー

2022年度 防災（避難）訓練を実施しました

Event

施設課

2022年度の本校地防災訓練を10月12日に実施しました。昨年度同様、新型コロナウイルス感染予防のため規模を縮小し、1・2年次生を対象とした訓練を行いました。今年度は避難訓練に加え、車椅子や担架による負傷者等の搬送訓練やスマートフォンを利用した安否確認システムによる安否確認訓練も実施しました。



本校地防災訓練の様子：中央庭園

また、11月16日には南校地での避難訓練を行いました。新型コロナウイルス感染防止のため避難場所では密にならないよう十分に配慮し、各所属内で事前に避難経路等を確認し訓練に臨みました。赤路学長からの講評では、南校地には薬品をはじめ火災の原因となる要素が多くあることから今後各所属内で防災意識を高めていく

よう訓辞がありました。次いで山科消防署からは放送をしっかりと聞いて状況を把握し、対応した行動をとること、扉の開閉については、地震の場合は避難用の扉を開けておくが、火事の場合は最終避難者が扉を閉めることで火の回りを遅くすること等、災害時のアドバイスがありました。重要なことは事前準備をし、安全に避難することです。この記事を見られた皆さんは日常生活の中で研究室や講義室・実習室、実習先の施設等において、安全な避難経路や消火器具の確認等を行い、自身や周囲の方の身を守れるようにしていただきたいと思います。



南校地防災訓練の様子：警備員室前

たなか けんいち
物理学分野 教授 田中 憲一

『“測る”を究めろ！』

—物理学実験攻略法—

久我隆弘 著

丸善出版

本書は一見すると物理についての書籍ですが、物理に限らず測定一般の基礎を記した一冊としてお勧めします。

一番の視点は、薬学を志す皆さんも取り組むであろう、あらゆる測定に付きものの不確かさ、誤差についてです。誤差論を詳述した書籍は多数ありますが、自分に合ったものを選ばないと難しく理解できないんですね。本書は、概念から取り扱いまで平易に書かれています。私の場合は論文作りの際に勉強する必要が生じましたが、当時は良い本に巡り会えず、米国の機関のガイドラインを四苦八苦して読みました。恥ずかしながら、知っていれば本書を読んだのにと感じてなりません。



高校数学でもおなじみの、サイコロを振って出る目の数を考えてみましょう。特定の回数振って、目の数の平均値を測るとします。その結果は大雑把に言うと測定するたびに異なるはずで、不確かさを添えて表現すべきですね。各回を見ると、ある目が出る確率は理想的な立方体のサイコロなら6分の1で、不確かさは統計的に扱えますね。

研究を始めると平均値をよく使います。平均の値は「ある関数」に従うと一般的に知られており、それに沿った誤差はエクセルなどでも簡単に出してくれて使っている人もいないのでしょうか。ですが測定量の中には別の関数に従うものもあり、どう扱うか困ったことがあります。さらに、統計に従わない不確かさまでありますが、それらの扱いや測定器の標準のお話、測定器を使うコツまで、かゆい所に手が届いているのが本書です。詳しくは専門書で勉強するとして、専門書を読み解くための入門書としてお勧めです。

加えて「ゆで卵と生卵はどちらが速く転がるか」などの小ネタや、「重力加速度などを身近な物理量を測る方法」など物理に関する読みものも豊富に含まれています。物理に親しむきっかけの一つとして触れてもらえると嬉しく思います。買ってまでは・・・という方には本学図書館にもありますので、ご利用下さい。

Library News

図書館

今年度も「図書館に置いてほしい！」と学生アンケートで要望があったものを中心に合計158冊の図書を教育後援会よりご寄贈いただきました。

展示コーナーを設置した翌日からすぐに貸出されるなど、毎年楽しみに待っている方も多く、今回は2022年本屋大賞に輝いた『同志少女よ、敵を撃て／逢坂冬馬』、滋賀県が舞台の話題作『塞王の楯／今村 翔吾』といった直近の直木賞、芥川直受賞作をはじめ、『世界はこうしてできている 美しい物理のしくみ／川村 康文』、『挑戦：常識のブレーキをはずせ／山中伸弥、藤井聡太』など、文芸書から知的好奇心をくすぐる実用書まで多岐にわたるラインナップとなっています。

勉強の合間のひとときや通勤、通学などの移動時間を充実させるお気に入りの1冊をぜひ、見つけてください。寄贈図書の一覧は、“図書館ホームページ＞資料案内＞教育後援会寄贈図書＞2022年度”からご覧いただけます。皆様のご来館をお待ちしています。

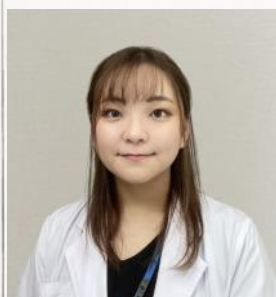


教育後援会寄贈図書コーナー

「強み」をつくる大学生活

でぐち

出口 あゆか



2020年 学部卒業
(薬物治療学分野)

大塚製薬株式会社
創薬基盤研究所 研究員

私は現在、製薬会社で創薬の研究をしています。具体的には、化合物の標的探索や作用機序の解明、疾患に対する創薬標的の探索などを目的として、日々研究に取り組んでいます。その中で感じたことは、薬学部での学びは専門性が幅広く、多角的な観点をもつことができるということです。

皆さんは、大学生活を通してどのようなことを学び、達成したいと考えているのでしょうか。国家試験に合格して薬剤師として働きたい、製薬企業で働きたいなど、明確な目標を持っている人もいれば、これから将来を考えたいという人もいます。もちろん目標をもって学ぶことは大切ですが、私は大学生活において自分の「強み」をつくることに目を向けてみても良いのではないかと思います。

ここでの「強み」とは、面接等で聞かれるような自分の長所だけではありません。知識や考え方としての他人との違い、自分だけの武器をつくることで

す。例えば同じ授業を受講し、同じ6年間の課程を修了したとしても、その中で特に記憶に残る内容や興味を持つ内容は人によって違います。それらの違いから自分にしかない知識や経験の積み重ねができ、独自の考え方を得ることができます。

研究の業務では、一つの疑問や課題に対して様々なバックグラウンドを持った研究員が集まり、多方面から解決のアプローチをすることが必要であるため、個人の強みを活かせる場が特に多いです。一見関係のないような、なんとなく記憶に残っていたことが実は重要で、授業中にふと聞いた一言や、研究室の他のチームの話、時には旅行先での経験でさえ、ひらめきや発見のヒントになることがあります。薬学部は専門性が幅広いと書きましたが、幅広いからこそ自分にしかない強みを見つけやすく、育てやすい環境です。研究職を目指す人に限らず、自由な視点でたくさんの学びをしてみてください。

私は現在も、自分の専門領域だけでなく様々な分野に目を向けて知識を増やすことを心がけていますが、業務の中でそういった機会を増やしていくのは簡単ではありません。大学生活は、学びと経験に全力で向き合うことのできる貴重な機会です。将来に明確な目標がない人も、目標はあるが就職後のイメージが難しい人も、まずは自分の「強み」をつくる大学生活を過ごしてみたいかがでしょうか。皆さんが大学を卒業したときに、自分に自信をもって将来に進むためのきっかけとなれば幸いです。私も創薬で社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。

2023年度学校推薦型選抜結果

Report

入試課

2023年度学校推薦型選抜の内、指定校制は2022年11月14日（月）に、一般公募制は11月19日（土）に実施され、12月1日（木）に合格発表が行われました。

結果は右表のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制	50名	54名	54名
一般公募制	90名	240名	101名

2022年度後期の試験日程は下表のとおりです。

※スケジュールは変更になる可能性がありますので、必ず最新状況をmanabaでご確認ください。

【後期試験等日程表】

年次	試験	期間	合格発表	受験手続日
6	アドバンスト薬学本試験	1月6日(金)・1月10日(火)	1月16日(月)～Webによる公開	—
	アドバンスト薬学再試験	1月26日(木)・1月27日(金)	卒業査定会 [2/14(火)] 後予定※	1月16日(月)～1月18日(水)
4	後期試験	1月12日(木)～1月16日(月)	1月26日(木)～Webによる公開	—
	後期再試験Ⅰ	2月6日(月)～2月8日(水)	2月17日(金)～Webによる公開	1月26日(木)～1月29日(日)
	前期・後期再試験Ⅱ	2月22日(水)～3月2日(木)	進級査定会 [3/16(木)] 後予定※	【前Ⅱ】1月26日(木)～1月29日(日) 【後Ⅱ】2月17日(金)～2月19日(日)
	OSCE本試験	2022年12月11日(日)	1月23日(月)14:00～1月25日(水)15:00	—
	OSCE追・再試験	3月6日(月)	進級査定会 [3/16(木)] 後予定※	1月23日(月)14:00～1月25日(水)15:00
	CBT本試験	1月19日(木)・1月20日(金)	1月31日(火)14:00～2月2日(木)15:00	—
	CBT追・再試験	3月3日(金)	進級査定会 [3/16(木)] 後予定※	1月31日(火)14:00～2月2日(木)15:00
1～3	後期試験	1月16日(月)～1月24日(火)	2月6日(月)～Webによる公開	—
	後期再試験	2月22日(水)～3月2日(木)	進級査定会 [3/16(木)] 後予定※	2月6日(月)～2月8日(水)

※詳細は決まり次第manabaでお知らせいたします。

【単位互換制度とは】

本学は公益財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定される制度です。2022年度は加盟校から348科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます。

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学生便覧並びにシラバスを参照して下さい。

■単位互換制度の魅力

1. 講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
2. 講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
3. 講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
4. 受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
5. 全ての科目を無料で受講できます。ただし、科目によっては参考書・テキスト代等が必要。

【受講方法】

3月上旬に大学コンソーシアム京都Webサイトにシラバスが掲載されます。前期・集中・後期科目とも3月中旬から出願受付が開始されますのでWeb上で登録・出願し、出願票を教務課に提出して下さい。出願票の提出期限はmanabaで通知します。

<単位互換・京カレッジポータルサイト><https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。



大学コンソーシアム京都

卒業生・在学生交流会（オンラインLIVE）を開催しました

Event

進路支援課

2022年9月11日（日）に「卒業生・在学生交流会（オンラインLIVE）」を開催しました。本プログラムは、卒業生の生の声を聞くことで在学生の職種理解を深めること、そして卒業生の方々には母校との関わりを持っていただくことを目的として2014年度から毎年開催し、一昨年からオンラインLIVE形式で実施しています。

開催方式としては、時間割を2つのセッション（各50分）に分け、それぞれの時間にWeb上のルーム（部屋）を5つ設けます。卒業生には、職種ごとに入室するルームを分かれていただき、在学生は、話を聞きたい職種のルームを選んで入室します。各ルームでは、卒業生の仕事内容紹介や、在学生からの質疑応答など、座談会形式の交流を行います。

卒後1～7年目の卒業生21名、在学生59名が参加し、大変盛況に会を終えることができました。質疑応答も活発に行われ、参加した在学生が積極的に仕事理解を進めようとする熱意が感じられました。

事後のアンケートでは、過半数の人が進路に対する考えの変化があったと回答しており、卒業生の皆様の「生の声」が、学生の視野を広げることに繋がったようです。「今までより視野を広げて就職活動を進めようと思うきっかけとなった」、「実際に現場で活躍される方々の生の声を聞き、自身の就職活動のモチベーションとなった」など、大きな刺激を受け、有意義な機会となったとの感想が多くありました。

卒業生の皆様からも「興味を持ってくれていると感じて嬉しかった」、「学生たちの意欲と質問が凄かった」などの声をいただきました。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

2022年 卒業生・在学生交流会（オンラインLIVE）時間割

	ルーム1	ルーム2	ルーム3	ルーム4	ルーム5
14:00～14:10	オープニング				
PM① (14:10～15:00)	製薬企業(MR・開発) CRO、その他	製薬企業 (研究・その他)	公務員	病院 薬局・DgS	大学院修了者
PM② (15:10～16:00)					
16:00～16:10	エンディング				

「病院パネルディスカッション」を開催しました

Event

進路支援課

11月10日（木）にA32講義室にて「病院パネルディスカッション」を開催しました。

本プログラムは病院や薬局の薬剤師を目指す学生を対象にした企画で、地域における役割や注力する取り組みの異なる3つの病院から薬剤師部長/副部長をお招きし、薬剤師のやりがいや心構え、今後の薬剤師への期待等についてお話いただく場として、5年ほど前から毎年開催しています。今年度は対面で42名、オンラインで80名の学生が参加しました（昨年度は対面19名、オンライン105名）。

ご登壇いただいたパネラーの先生方3名は本学ご出身ということもあり、当日は同窓の間柄ならではの気さくなやりとりも交えながら、複数のテーマについて討論がおこなわれました。また、討論の随所で各先生方から後輩学生に対して温かいアドバイスがありました。

実施後の学生アンケートからは、病院薬剤師のやりがいや必要とされている力、チーム医療での薬剤師の役割、薬薬連携の現状など学生視点で知りたいことを具体的に聞くことができた、あるいは今回のお話をもとに日々の生活の中で人間性を養うことも大切にしようと思った、等の声がありました。参加した学生は、

多くのことを吸収できたのではないかと考えています。

現在5年次生の皆さんは年明けから就職活動が少しずつ本格化していくと思いますが、体調に気を付けながら悔いの無いよう準備を進めていきましょう。4年次生の皆さんは、間もなく実務実習が始まります。将来の理想像を具体的にするためにも、意欲的に取り組み多くのことを吸収しましょう。



パネルディスカッションの様子

10月9日（日）にオープンキャンパスを開催しました。今回は対面プログラム参加、オンライン配信参加、学内施設自由見学のみ参加の3方式で実施し、総数248組の方に参加いただきました。

T31講義室をメイン会場とし、「学長メッセージ」、「大学紹介」、「在学生の話」、「卒業生の話」、「模擬授業」、「在学生による企画」を実施、配信しました。また、躬行館食堂では来学者のみ参加できる「相談コーナー」を開催しました。相談希望の方々にお待ちいただくほど盛況でした。

「在学生の話」は薬学分野所属6年次生の村上浩起さん、「卒業生の話」は京都府健康福祉部薬務課にお勤めの金附宏明さんに講演を行っていただきました。

「模擬授業」は本学の薬理学分野の藤井正徳准教授に「薬理学へのいざない」というタイトルで行っていただきました。参加者アンケートでは「薬理学を高校生にもわかりやすくひも解いて下さり、薬学全体にもより興味が湧いた。」、「京都薬科大学生になりたい



藤井准教授の模擬授業

と強く思った。」と好評をいただきました。

「学内施設自由見学」は限定的ではありますが学内施設を開放し、学生生活を想像しながら気軽に見学できるようにしました。案内を担当したアルバイト学生に積極的に質問される参加者も多く、在学生の生の声から本学で学ぶイメージがより具体的になったと好評をいただきました。



学内施設見学の様子

参加者アンケートでは、「京都薬科大学に入学したいと思う気持ちがさらに高まりました。」、「今回実際に大学に行き、通学時間や電車の乗り継ぎ、駅から学校までの距離、学校の中の見学が出来て、良かったです。」といった感想をいただきました。

今年度のオープンキャンパスは10月度のオープンキャンパスですべて終了となります。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で予定していたとおりには開催できませんでした。来年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着き、より多くの方に参加いただけることを願っております。また、参加者の皆様に本学の魅力を発信するため、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと考えております。参加者アンケートに記載いただきましたご意見ご要望に関しても、ご期待にできるだけ沿えるよう、尽力して参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第108回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験日	2023年2月18日（土）及び同月19日（日）
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] ・薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 ・薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2023年3月22日（水）午後2時に厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号を掲載して発表されるほか、合格者に対して合格証書が郵送されます。

*詳細は、厚生労働省ホームページ「第108回薬剤師国家試験の施行」をご参照ください。

■ 「心身の健康や生活状況等に関するアンケート」の結果に関する所感

学生相談室では、2020年度から3年間にわたり、前期試験終了直後に「心身の健康や生活状況等に関するアンケート」を実施してきました。全学生ではなく、あくまで回答に協力してくれた学生達の傾向ではありますが、3年間のアンケート結果から見えてくることについて、公表しても差し支えない範囲でお話させていただきます。

まず、心身の健康を維持する上で大切な生活習慣である「睡眠」、「食事」、「生活リズム」については、2020年度に比べ、2021年度、2022年度では状態が比較的改善していました。そして、「相談できず困っている」「誰とも話せず寂しさや辛さがある」といった質問への回答に関しても、2020年度よりも2021年度、それよりも2022年度と、年度を重ねる毎に改善傾向がみられました。その理由としては、2020年度前期の完全Web授業実施から、2020年度後期以降には、対面授業との組み合わせのハイブリッド方式になったこと、制限はありながらも課外活動が少しずつ活発化してきていること等が挙げられると思います。対面授業や課外活動を通じて、外出機会や対人交流場面が増加していく環境下で、生活にメリハリが付きやすくなったり、孤独感を感じやすい状況が解消されていったという流れがあったと考えられます。そのような中、COVID-19禍以前と全く同じとはいかなくても、自分なりに日常を取り戻し、元気に過ごしているという人もいます。

一方で、「気分の落ち込みや不安といった心的なストレスを自覚している」と考えられる回答者の割合は、今年度も約半数と少なくない数字です。また、この割合自体は、3年間ほぼ変わりありません。そして、減少傾向とはいえ、生活習慣に問題を抱えていたり、

相談できずに困っていたり、孤立感や孤独感を感じていたりといった学生も存在しています。また、自由記述を見てみると、COVID-19禍での自粛生活が常態化することが、活気の低下や退屈感、人間関係の希薄化、寂しさにつながっている様子や、COVID-19禍をきっかけに表面化してきた、家族や友人等親しい人達との考え方の違いやズレといったものが、対人関係のモヤモヤ感や戸惑いにつながっている様子が見受けられました。

アンケートの結果からも言えることですが、「COVID-19禍での生活をどのように経験してきたのか」については個人差が非常に大きく、それぞれ異なるものであるという理解は非常に大切であると思われます。元気そうに振舞っていても実は周囲に合わせているだけで、実際はそうではないという人もいます。

人が何を考え、どう感じているのかという「こころの中で起きていること」は目に見えないためわかりにくく、身近な人同士であっても、無理解や誤解が生じることもあります。だからこそ、関わる相手の「見えないこころの部分」を想像しながら、そしてその想像が合っているのかどうかを、お互いが言葉にして確かめながら関わっていくことが大切です。

人とどのように関わったらいいのかわからない、人の目が気になってどう振舞っていいのかわからない、特定のひととの関係がうまくいかない等、人間関係に関する悩み事も増えてくるころかもしれません。そんな時はぜひ学生相談室をご利用ください。すぐに答えがでるわけではないかもしれませんが、カウンセラーとともに考えることで、解決のための糸口が見つかることもあります。ご利用お待ちしております。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、COVID-19感染拡大防止の観点から、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

◇開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15

◇電話：075-595-4672（建部）／075-595-4686（上野）

◇メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp



申込フォームQRコード

■2023年度生涯研修プログラム 概要

高齢化の進展による在宅医療の推進、医療の高度化・多様化、電子処方箋やAI、ビッグデータの活用等の社会的要請に応えるため、薬剤師には臨床実践能力や高い専門性の獲得・向上が求められます。

2023年度のプログラムは、ダイナミックに変化する薬剤師業務に必要な、実践力の獲得と最先端のテーマの理解・知識習得を目標に置いています。オンライン受講できる講座も増やしました。

皆様のご参加・お問合せをお待ちしています。

本学学生・教職員の聴講は無料ですので、ふるってご参加ください（参加方法は表下部をご参照ください）。

(2022/11現在)

プログラム名 (定員)		開催日時		テーマ／担当講師	単位 (G24)	参加費 (円)	申込 受付期間
フィジカル アセスメント講座	<入門 コース> (対面100 名)	4/9(日) 10:00～16:00 対面＆オンライン		フィジカルアセスメントを活用して多職種連携を進めよう 1.総論「医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう」 2.疾病の基礎「患者が示すバイタルサインと症候から処方方を提案してみよう」 JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田 真一 先生 学校法人京都育英会 京都看護大学 助教 門田 典子 先生 医療法人橋会東住吉森本病院 薬剤科 主任 佐古 守人 先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木 誠之 先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西 孝至 先生	3	5,500	2023年 2/8(水)～ 3/27(月)
	<実践 コース> (20名)	4/23(日) 10:00～16:30 対面のみ		薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント推論力～服薬後のMy患者に責任を持つために～ 1.(講義・実習)バイタルサイン情報収集スキル習得 2.ランチョンミーティング 3.(講義・SGD)症例検討・発表 4.(混合討論)実例紹介動画についての質問、自己目標発表 JCHO 京都鞍馬口医療センター 血液内科 医師 淵田 真一 先生 学校法人京都育英会 京都看護大学 助教 門田 典子 先生 医療法人橋会東住吉森本病院 薬剤科 主任 佐古 守人 先生 みやこ薬局薬大前店 副薬局長 金辻 純子 先生 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授 医師 細木 誠之 先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 薬剤師 救急救命士 今西 孝至 先生	3.5	10,500	2023年 2/8(水)～ 4/10(月)
卒後 教育講座	ー D 歩 X 先 の 変 薬 剤 す 師 を 医 目 療 指 に し て 応 じ た 対面 & オンライン (200名予定)	第1回 5/21(日)	10:00～11:30	脳卒中診療における薬物療法 京都大学大学院医学研究科臨床神経学(脳神経内科) 講師 眞木 崇州 先生	3	4日間 12,500	2023年 3/1(水)～ 5/8(月)
			12:30～14:00	オンライン服薬指導とファーマシューティカルコミュニケーション 帝京平成大学 薬学部 井手口 直子 先生			
			14:15～15:45	心不全患者の包括的管理 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師 白石 裕一 先生			
		第2回 6/18(日)	12:30～14:00	臨床推論の考え方、活かし方 山梨大学医学部附属病院 薬剤部 中込 哲 先生	2		
			14:15～15:45	～あなたが職場で倒れたら～確実な急変対応を共有しよう！ 京都府立医科大学大学院医学研究科 救急・災害医療システム学 講師 山畑 佳篤 先生			
		第3回 7/9(日)	10:00～11:30	脳死患者の臓器提供を見据えた全身管理 京都第二赤十字病院 救命救急センター 救急科 副部長 成宮 博理 先生	3		
			12:30～14:00	2型糖尿病における薬物療法 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学 講師 白石 裕一 先生			
			14:15～15:45	ビッグデータを活用した医療薬学研究 岡山大学病院薬剤部 薬剤部長 教授 座間味 義人 先生			
		第4回 8/27(日)	12:30～14:00	医療用添付文書の活用～IFやRMP、審査報告書でしか分からないこととは～ 京都大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 深津 祥央 先生	2		
			14:15～15:45	医療DXと薬剤師の業務 日本薬剤師会 副会長 渡邊 大記 先生			
漢方講座 (100名予定) 対面 & オンライン	9/10(日)、10/8(日)、 11/12(日)、12/17(日) 予定 全4回		<詳細未定> 対象:漢方治療に関心のある薬剤師 10:00～11:40【基礎】入門的内容 12:30～14:10【薬物】薬剤師に役立つ内容 14:20～16:00【臨床】医師からの臨床症例		3/日 全12	4日間 20,500	2023年 7/12(水)～ 8/28(月)
実務支援 セミナー (各20名) 対面のみ	2024年2/25(日) ●午前の部 9:30～13:00 ●午後の部 13:30～17:00		注射薬の無菌混合調製～がん化学療法と在宅医療～ 1.事前eラーニング(導入講義):注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識、がん化学療法の実際 2.実技実習:衛生的な手洗い、手指消毒、帽子・マスク・手袋・ガウンの装着、注射薬混合調製(アンブル、バイアルの取扱、薬液採取、陰圧操作)、高カロリー輸液混合調製、配合変化の実態 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 がん指導薬剤師 中村 暢彦 先生 京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 助教 がん専門薬剤師 家瀬 諒 先生 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 特命教授 山内 一恭 先生 他		3 (事前e ラーニ グ1単 位含)	10,500	2023年 12/6(水)～ 2024年 2/12(月)
eラーニング講座	2023年6/1(木) ～2024年2/29(木) 配信予定		2023年度卒後教育講座、2023年度漢方講座の収録動画を順次配信します。 2022年度eラーニング講座のコンテンツも再配信します。 〈ご注意〉 過去にeラーニング講座または対面講義の講座を受講し、既に単位取得済みのコンテンツは、認定単位の配付はありません(視聴のみ可)。		新規 22 (予定)	15,500	2023年 4/1(土)～ 2024年 2/22(木)

【参加方法】本学学生・教職員の無料聴講について

- 卒後教育講座、フィジカルアセスメント講座(入門コース)、漢方講座、eラーニング講座:manabaコースニュースにて案内します。
eラーニング講座のみ、初回に生涯教育センターHPで会員登録が必要です。
- フィジカルアセスメント講座(実践コース)、実務支援セミナー:申込受付期間終了後、定員に空きがある場合のみ参加可能です。
メールで実務・生涯教育課にお問合せください。

■2023年度生涯研修プログラム申込受付のお知らせ

2023年2月8日(水)より「フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉」と「フィジカルアセスメント講座〈実践コース〉」、2023年3月1日(水)より「卒後教育講座」の申込受付を開始します。

◇フィジカルアセスメント講座〈入門コース〉 ※本学学生・教職員無料

「多職種連携の共通言語はフィジカルアセスメント！～患者状態や家族背景を共有しよう～」

開催日時：2023年4月9日(日) 10:00～16:00

開催場所：京都薬科大学 躬行館3階 T31講義室及びオンライン配信

定員：対面100名 参加費：5,500円 認定単位：G24 3単位

申込受付期間：2023年2月8日(水)～3月27日(月)

◇フィジカルアセスメント講座〈実践コース〉 ※薬剤師限定

「薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント推論力～服薬後のMy患者に責任を持つために～」

開催日時：2023年4月23日(日) 10:00～16:30

開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター2階

定員：20名 参加費：10,500円 認定単位：G24 3.5単位

申込受付期間：2023年2月8日(水)～4月10日(月)

※申込受付期間終了後、定員に空きがあれば学内(本学大学院生、教職員)からの参加を受付けます。

◇卒後教育講座 ※本学学生・教職員無料

「DXで変貌する医療に対応した一歩先の薬剤師を目指して」

開催日程：2023年5月21日(日)、6月18日(日)、7月9日(日)、8月27日(日)

5月・7月 10:00～16:00 / 6月・8月 12:30～16:00

場所：京都薬科大学 躬行館3階 T31講義室及びオンライン配信

定員：対面 200名(予定) 参加費：12,500円 認定単位：G24 計10単位(1単位/演題)

申込受付期間：2023年3月1日(水)～5月8日(月)

■申込方法 生涯教育センターホームページよりお申込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



2023年度フィジカルアセスメント講座
入門コース申込ページ



2023年度フィジカルアセスメント講座
実践コース申込ページ



2023年度卒後教育講座
申込ページ



生涯教育センター
トップページ

■お問合せ先：京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

TEL：075-595-4677 (平日 10:00～16:00)

FAX：075-595-4792

E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

2023年度申込受付中!!

京都薬科大学 履修証明プログラム

(専門・認定薬剤師資格 取得支援)

Lehmannプログラム

社会人向けリカレント教育プログラム(1年コース)です。

★専門・認定薬剤師資格取得サポート

★将来の薬学領域におけるリーダー育成

★少人数担当制(2,3名に1名の指導教員)によるきめ細かな指導

詳細は、京都薬科大学生涯教育センターホームページをご覧ください。

京都薬科大学
生涯教育センター
Lehmannプログラム



受賞・掲載

Report

■ 公衆衛生学分野の吉川勇人さんが第3回和漢医薬学会若手研究者フォーラムにおいて優秀発表賞を受賞しました

2022年8月21日（日）にオンラインで開催された第3回和漢医薬学会若手研究者フォーラムにおいて、公衆衛生学分野の吉川勇人さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：公衆衛生学分野 5年次生 吉川 勇人

演題：HSP105 発現抑制作用を介したがん細胞死誘導作用をもつ薬用植物由来低分子化合物の探索

演者：吉川勇人、松本崇宏、渡辺徹志



■ 生薬学分野の中村誠宏准教授が日本生薬学会第68回年会において学術貢献賞を受賞しました

2022年9月10日（土）・11日（日）にオンラインで開催された日本生薬学会第68回年会において、生薬学分野の中村誠宏准教授が学術貢献賞を受賞しました。

受賞：生薬学分野 准教授 中村 誠宏

演題：薬用食品由来成分を利用した難治性疾患予防・治療薬の開発研究

演者：中村誠宏



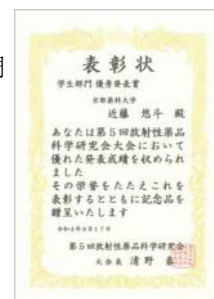
■ 代謝分析学分野の近藤悠斗さんが第5回日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会の学生部門において優秀発表賞を受賞しました

2022年9月17日（土）に開催された第5回日本核医学会分科会放射性薬品科学研究会の学生部門において、代謝分析学分野の近藤悠斗さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：代謝分析学分野 博士課程3年次生 近藤 悠斗

演題：銅触媒を用いた脱ホウ素ハロゲン化反応に基づく放射性ヨウ素標識ペプチドの効率的合成

演者：近藤悠斗、木村寛之、佐々木美音、服部恭尚、河嶋秀和、安井裕之



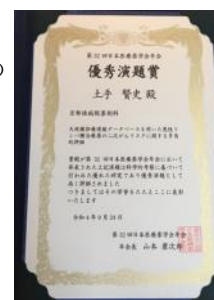
■ 臨床薬剤疫学分野の土手賢史さんが第32回日本医療薬学会年会において優秀演題賞を受賞しました

2022年9月23日（金）に開催された第32回日本医療薬学会年会において、臨床薬剤疫学分野の土手賢史さんが優秀演題賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 研究員 土手 賢史

演題：大規模診療情報データベースを用いた悪性リンパ腫治療薬の二次がんリスクに関する多角的評価

演者：土手賢史、冢瀬諒、後藤良太、小林由佳、村木優一



■ 薬品物理化学分野の南波憲宏さんが第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（PPF2022）の博士・教員の部において優秀発表賞を受賞しました

2022年9月12日（月）・13日（火）にオンラインで開催された第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（PPF2022）の博士・教員の部において、薬品物理化学分野の南波憲宏さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬品物理化学分野 博士課程1年次生 南波 憲宏

演題：ApoA-I アミロイド線維形成過程の速度論的並びに熱力学的解析

演者：南波憲宏



■ 本学の学生14名が第72回日本薬学会関西支部総会・大会において優秀発表賞を受賞しました

2022年10月8日（土）に開催された第72回日本薬学会関西支部総会・大会において、本学の学生14名が優秀発表賞を受賞しました。

【優秀口頭発表賞】

受賞：細胞生物学分野 博士課程2年次生 祝迫 佑紀

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス（KSHV）遺伝子ORF7はKSHVターミナーゼ機能に重要である

演者：祝迫佑紀、渡部匡史、関根勇一、鈴木陽一、中野隆史、藤室雅弘

受賞：生化学分野 博士課程2年次生 池田 有紀

演題：脱SUMO化タンパク質DES1は細胞分裂進行制御に必要である

演者：池田有紀、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：薬理学分野 博士後期課程1年次生 田中 里奈

演題：アトピー性皮膚炎モデルマウスの掻痒行動に及ぼすニューロステロイド脳内投与の影響

演者：田中里奈、田中智之、藤井正徳

受賞：薬剤学分野 6年次生 真壁 瑞歩

演題：アミノ酸代謝機構とクリックケミストリーを利用したビフィズス菌由来細胞外小胞への分子搭載法の確立

演者：真壁瑞歩、森下将輝、篠原知紗、勝見英正、山本昌

【優秀ポスター発表賞】

受賞：薬品分析学分野 6年次生 松本 侑季奈

演題：疎水性イオン液体含有コルチゾールインプリントゲルのワンステップ作製法の検討

演者：松本侑季奈、小西敦子、中條恵介、田中亜季、武上茂彦

受賞：細胞生物学分野 4年次生 鹿井 遥花

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスの DNA ポリメラーゼ ORF9 の機能解析

演者：鹿井遥花、祝迫佑紀、関根勇一、藤室雅弘

受賞：細胞生物学分野 4年次生 堀口 翔矢

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスがコードする膜タンパク質ORF53/gNの機能解析

演者：堀口翔矢、祝迫佑紀、関根勇一、藤室雅弘

受賞：生化学分野 6年次生 太田 稜子

演題：v-Src発現細胞での擬似的な細胞質分裂の誘導とAurora Bの局在異常

演者：太田稜子、渡邊卓美、和澤佑樹、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：生化学分野 4年次生 長谷川 七海

演題：EphA2ノックダウンによる多核細胞形成

演者：長谷川七海、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：生化学分野 4年次生 柳田 さくら

演題：アミノ酸トランスポーターLAT1は細胞分裂を支持する

演者：柳田さくら、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：臨床腫瘍学分野 6年次生 木下 晴菜

演題：ヒト大腸がんHCT116細胞におけるGGCTノックダウンによる増殖抑制機構

演者：木下晴菜、近藤真帆、飯居宏美、中田晋

受賞：臨床腫瘍学分野 5年次生 森 昌也

演題：GGCTノックダウンはDhh発現低下を介してマウス胚芽腫幹細胞の増殖を抑制する

演者：森昌也、吉田百花、野瀬梢、茂山千愛美、安藤翔太、藤田貢、飯居宏美、中田晋

受賞：薬剤学分野 5年次生 辰己 日向子

演題：セリン修飾高分子を利用したメトトレキサートの腎臓ターゲティングならびにその腎細胞癌治療への応用

演者：辰己日向子、勝見英正、木村葉、安富彰一龍、北田翔、安岡慎太郎、森下将輝、山本昌

受賞：統合薬科学系 5年次生 土居 佳祐

演題：2つの転写因子ASCL1とLMX1Aの誘導性発現によるヒト人工多能性幹細胞からドパミン神経細胞への迅速な変換法の開発

演者：土居佳祐、西村周泰、仁田達海、高田和幸

■ 統合薬科学系の福田愛菜さんが日本生薬学会第68回年会において優秀発表賞を受賞しました

2022年9月10日（土）・11日（日）に開催された日本生薬学会第68回年会において、統合薬科学系の福田愛菜さんが口頭発表で優秀発表賞を受賞しました。

受賞：統合薬科学系 博士課程4年次生 福田 愛菜

演題：Bacopa monniera由来A β 結合性低分子化合物によるA β の検出と神経保護作用の解析

演者：福田愛菜、中嶋聡一、尾田好美、西村周泰、花木葵、河嶋秀和、木村寛之、中村誠宏、松本崇宏、岡崎瑞紀、松田英里香、田中雪衣、松田久司、高田和幸



■ 臨床薬剤疫学分野の後藤良太さんが第70回日本化学療法学会西日本支部総会において優秀賞を受賞しました

2022年11月3日（木）～5日（土）に開催された第70回日本化学療法学会西日本支部総会において、臨床薬剤疫学分野の後藤良太さんが優秀賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 博士課程2年次生 後藤 良太

演題：大規模保険診療情報を用いたバンコマイシン投与後の急性腎障害発生率および30日死亡率に対する治療薬物モニタリングの効果

演者：後藤良太、冢瀬諒、村木優一



■ 臨床薬剤疫学分野の村木優一教授が第55回日本薬剤師会学術大会において優秀賞を受賞しました

2022年10月9日（日）・10日（月）に開催された第55回日本薬剤師会学術大会において、臨床薬剤疫学分野の村木優一教授が優秀賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 教授 村木 優一

演題：日本で初めて明らかとなった全国の薬局から収集した調剤情報に基づく抗菌薬使用動向とその影響因子の探索

演者：村木優一、前田真之、冢瀬諒、高橋正夫、河上英治、堀越博一、橋場元、宮崎長一郎



■ 薬化学分野の小林祐輔准教授が5th International Symposium on Halogen Bonding (ISXB5)においてChemPlusChem Poster Awardを受賞しました

2022年11月6日（日）～10日（木）に開催された5th International Symposium on Halogen Bonding (ISXB5)において、薬化学分野の小林祐輔准教授がChemPlusChem Poster Awardを受賞しました。

受賞：薬化学分野 准教授 小林 祐輔

演題：Synthesis, Characterization, and Application of N-Acylimino-lambda3-iodanes bearing Intramolecular Halogen Bonding

演者：Yusuke Kobayashi, Tomohiro Kimura, Sayaka Yamamoto, Shohei Hamada, Takumi Furuta, Yoshiji Takemoto



■ 臨床薬剤疫学分野 村木教授の研究が薬事日報に掲載されました

臨床薬剤疫学分野の村木教授の研究が薬事日報（2022年9月16日）に掲載されました。

■ 赤路学長の取材記事が薬事日報に掲載されました

赤路学長の取材記事が薬事日報（2022年10月31日）に掲載されました。

掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

* 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2022年9月～2022年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等（五十音順）>

蘆田 康子	高越 清昭
大原 松雄	高美 時郎
進藤 広彦	高美 美鶴
袖岡 茂徳	中森 省吾

< 卒業50周年記念募金（昭和48年卒業生）>

井口 恵子	常木 雅美
伊澤 輝子	湯本 益美

< 法人役員・評議員・職員等（五十音順）>

赤路 健一（学長）	北澤 京子（理事）
-----------	-----------

（2022年11月30日現在）



KPU NEWS No. 212 2023年1月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。